

令和2年産米の秋田県の「生産の目安」について

令和元年12月5日
秋田県農業再生協議会

秋田県全体の令和2年産主食用米の本県全体の「生産の目安」について、令和元年12月5日に開催した当協議会臨時総会において、次のとおり決定しました。

令和2年産の秋田県の「生産の目安」	405,000 トン
(面積換算値)	70,680 ha)

令和2年産米の県の「生産の目安」について

1 算定方法

本県の「生産の目安」は、「全国生産量と県産米シェアから算出した数値」と「需給動向と適正在庫量から算出した数値」の中間値を基本とし、必要に応じて「直近の販売状況を踏まえた補正」を行って設定することとする。

2 算定に用いる数値

(1) 需要量と県産米シェア

年産米	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	7中5平均	H30-H29
全国(トン)	7,811,000	7,866,000	7,825,000	7,662,000	7,540,000	7,396,000	7,346,000	-	-50,000
秋田県(トン)	403,815	440,402	412,193	470,654	413,615	399,388	436,760	-	37,372
県産米シェア(%)	5.1698	5.5988	5.2676	6.1427	5.4856	5.4001	5.9455	5.5395	0.5454
平均値採用	×	○	○	×	○	○	○		

出典:米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針

(2) 適正在庫量

6月末の県産米の適正在庫量は、国が「安定供給が可能な水準」とする全国在庫量180万トンに県産米シェアを乗じた10万トンを下限とし、県産米の価格が安定すると見込まれる12万トンを上限として、この範囲にある場合は、在庫量を維持できるように「生産の目安」を設定し、適正範囲を外れている場合は、期末在庫量が適正範囲内となるように「生産の目安」を設定する。

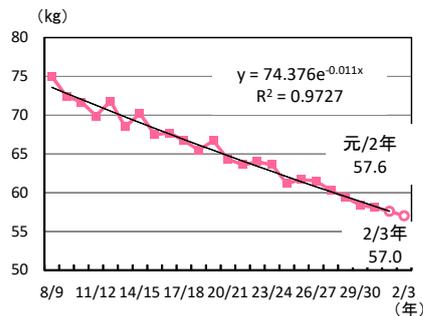
(3) 主食用米の需要量 (国によるトレンド推計: 令和元年11月基本指針より)

① 平成8/9年～平成30/令和元年までの1人当たり消費量を算出

年	需要実績 ①	人口 ②	1人当たり消費量 ①/②
	万トン	千人	kg
8/9	943.8	125.859	75.0
9/10	912.9	126,157	72.4
10/11	907.3	126,472	71.7
11/12	885.9	126,667	69.9
12/13	911.5	126,926	71.8
13/14	872.1	127,316	68.5
14/15	894.7	127,486	70.2
15/16	861.6	127,694	67.5
16/17	865.4	127,787	67.7
17/18	851.7	127,768	66.7
18/19	837.5	127,901	65.5
19/20	854.5	128,033	66.7
20/21	823.6	128,084	64.3
21/22	814.1	128,032	63.6
22/23	820.0	128,057	64.0
23/24	813.3	127,834	63.6
24/25	781.1	127,593	61.2
25/26	786.6	127,414	61.7
26/27	782.5	127,237	61.5
27/28	766.2	127,095	60.3
28/29	754.0	126,933	59.4
29/30	739.6	126,706	58.4
30/元	734.6	126,443	58.1
元/2		126,140	
2/3		125,691	

② 令和元/2年及び令和2/3年の1人当たり消費量(推計値)を算出

年	x	1人当たり消費量 (y)
		kg
8/9	1	75.0
9/10	2	72.4
10/11	3	71.7
11/12	4	69.9
12/13	5	71.8
13/14	6	68.5
14/15	7	70.2
15/16	8	67.5
16/17	9	67.7
17/18	10	66.7
18/19	11	65.5
19/20	12	66.7
20/21	13	64.3
21/22	14	63.6
22/23	15	64.0
23/24	16	63.6
24/25	17	61.2
25/26	18	61.7
26/27	19	61.5
27/28	20	60.3
28/29	21	59.4
29/30	22	58.4
30/元	23	58.1
元/2	24	57.6 (推計値)
2/3	25	57.0 (推計値)



※ 人口は、総務省「人口推計」の各年10月1日現在の値である。

③ 令和元/2年及び令和2/3年の1人当たり消費量(推計値)に令和元年及び令和2年の人口(推計値)を乗じて需要見通しを算出

	元/2年	2/3年
1人当たり消費量(推計値) ①	57.6kg	57.0kg
	元年	2年
人口(推計値) ②	126,140千人	125,691千人
	元/2年	2/3年
需要見通し ①×②	727.0万トン	716.8万トン
	↓	
需要見通し	727万トン	717万トン

注1: 人口(推計値)は、令和元/2年は、「人口推計(総務省令和元年10月公表)」の総人口(令和元年10月1日現在(概算値))。以下「令和元年10月現在人口」という、令和2/3年は、令和元年10月現在人口に、「日本の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所平成29年4月公表)」の令和元年10月1日から令和2年10月1日までの総人口(出生中位・死亡中位推計)の減少率を乗じて算出した値。
 注2: 図中の需要見通しは、1人当たり消費量(推計値)の実数に、人口(推計値)の実数を乗じて算出した値のため、図中の1人当たり消費量(推計値)(小数点第2位を四捨五入)に人口(推計値)(小数点第1位を四捨五入)を乗じて算出した値とは一致しない。

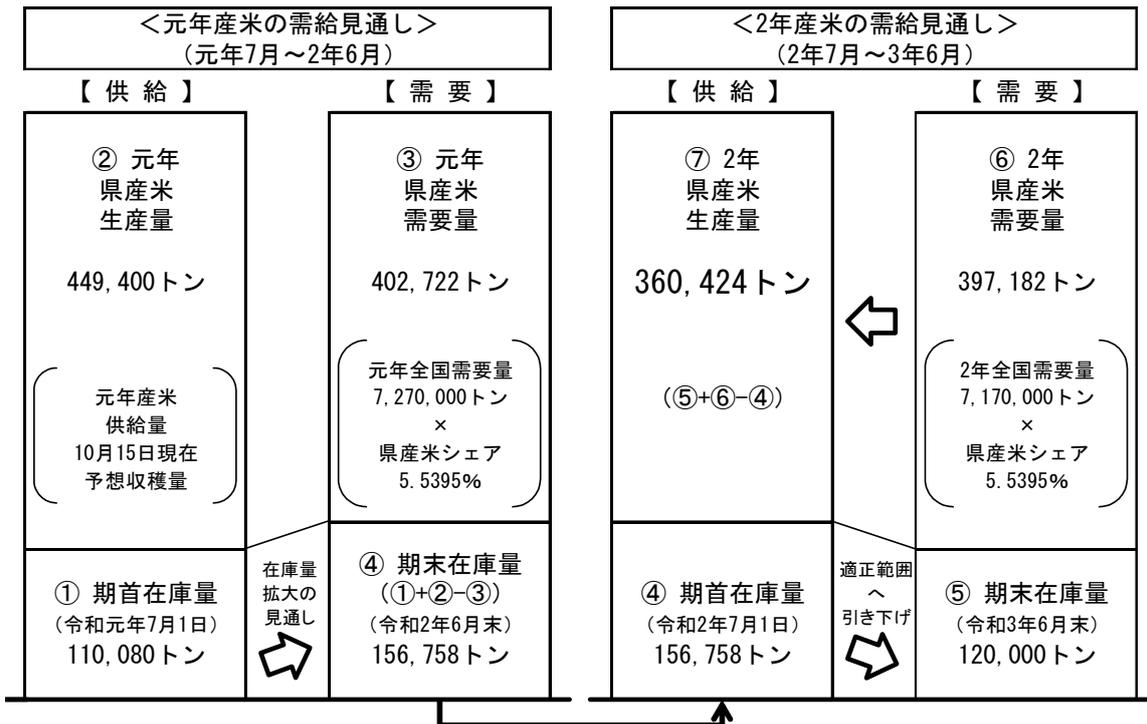
3 令和2年産米の県の「生産の目安」の算出

(1) 全国生産量と県産米シェアから算出した数値(県目安A)

①2年産米全国生産量 (元年11月末基本指針)	②2年産米(県目安A) (①×県産米シェア5.5395%)
713万トン	394,966トン

※令和2年産米の全国生産量については、708~717万トンの幅を持って設定されたため、中間値の713万トンを使用。

(2) 需給動向と適正在庫量から算出した数値(県目安B)



(3) 県目安AとBの中間値の算出

県目安A	県目安B	中間値 (A+B)÷2
394,966トン	360,424トン	377,695トン

(4) 直近の販売状況を踏まえた補正

- 中間値（377,695トン）は、算定根拠の多くを従前の生産数量目標管理下での需要実績に基づいて算出しているため、30年産米以降における集荷業者の販路拡大が反映されにくく、増産分が在庫の増加に直結するかたちになっている。
- 実際の30年産米の需要量は、29年産米より37,372トン拡大しており、これは、集荷業者の積極的な販路拡大によって、新たな需要が積み上げられたものである。
- しかしながら、30年産米については、北海道や新潟県などの主産地の作柄が悪かったことを踏まえると、県産米に有利な販売環境であったとの見方もあり、拡大した需要量の全てが今後も継続して販売が見込める確実な需要であるとは言い難い。
- 一方、本県では、元年産米から事前契約の取組を推進しており、6月末までの早期事前契約締結分は、今後も実需者と継続した販売が期待できることから、30年産米における需要量の拡大部分のうち、元年産米の早期事前契約割合（75%）に当たる28,000トンを元年産米における販路拡大分とする。
- また、主要な集荷団体が卸等に対して行った需要調査によると、2年産については、元年産米と同程度の販売が見込まれている。
- こうしたことから、中間値を以下のとおり補正し、2年産の「生産の目安」を405,000トンと設定する。

中間値	+	元年産米 販路拡大分	+	2年産米 販路拡大分	=	405,695 トン				
377,695 トン		28,000 トン		0 トン						
						≐				
						405,000 トン	÷	県平均単収 573kg/10a	=	70,680 ha

令和2年産米「生産の目安」 **405,000 トン**

（面積換算値） **（ 70,680 ha ）**

【参考】30年産米以降の「生産の目安」と面積換算値の年次推移

	平成30年産米	令和元年産米	令和2年産米	令和2年－令和元年
全国	7,350,000 トン	7,180,000 ～ 7,260,000 トン	7,080,000 ～ 7,170,000 トン	▲ 90,000 ～ ▲ 100,000 トン
秋田県	408,700 トン (71,326 ha)	407,000 トン (71,030 ha)	405,000 トン (70,680 ha)	▲ 2,000 トン (▲ 350 ha)